

東京八期新北見会新年会



2016年1月18日、東京は未明から雪であった。

在鹿の同期老朋友から恵贈された「同窓会記念」の焼酎を

賞飲すべく、いつにない新年会を催すことになった。

竹之内望彦くん手配で「暫亭いろり：新橋」に席を設けられ、

雪道を踏みしめながら参集した。

村上久幸くんは、栃木県から馳せ参じる途中、

雪のため列車立往生で次回のお席を期さなければならなかった。

いつものことながら、飲み、かつ談論風発で、時間がすぎる。

今回も午後4時集合で、解散は午後9時を過ぎ。



今回の会合場所からそう遠くないところに、

「江戸開城、西郷南洲・勝海舟会見の地」の碑がある。

当初予定では、そこを訪れることになっていた。

しかし、降雪で足場がよくないので、今回は取りやめにした。

ということもあって、今回の談論のテーマは「江戸開城」。

慶応4年3月13日と14日、西郷南洲と勝海舟の肝胆相照らす
両雄によって、無血江戸開城、江戸100万市民は戦禍を免れた。

13日の談判は、地図に「松平薩摩守」と記された広いほうの屋敷、

14日は「海岸沿いの松平薩摩守」と記された蔵屋敷で行われた。

蔵屋敷は荷物搬出入のため水利のよい海岸や川沿いに設けられる。

この蔵屋敷は、JR品川駅から東京駅へ1駅先のJR田町駅から



ほど近いと
ころにある。

広い方の「松
平薩摩守」屋
敷跡は、現在、
再開発によ
り

「芝さつま
の道」になっ
ている。ここ
を遊歩する
予定であっ
たが、

これも雪のため、日を改めて行うことにした。

詳しくは「芝さつまの道」を検索してください。

年齢を重ねると経験や知識が増え、談論は尽きるところをしらない。

雪で参加が叶わなかった村上くんから

「トキメキは 喜寿を過ぎれば 不整脈」とメールがきた。

また、彼は古市庄八くんからの連絡で、千葉県佐倉市で

昨年暮れに開催された大久保利通展を訪れたとのこと。

玉龍・薩摩・明治維新などの話題に尽きることはない。

=====

西山 和宏